

令和6年度 小平第四小学校 授業改善推進プラン全体計画

児童の実態

R6「全国学力・学習状況調査」

- ◎個々の基礎学力の向上
- ◎国語：「読むこと」の向上
- ◎算数：「データの活用」領域の向上
- △基礎学力の二極化。
- △家庭学習時間の二極化

目指す児童像

- ◎正確に読み、正確に書く児童
- ◎情報から分析し、判断する児童
- ・物事を多面的・多角的に吟味し見定めていく児童
- ・問題を発見し、粘り強く解決する児童
- ・多様な考えを認め、協働していく児童
- ・学習を見直し振り返る児童

課題解決

思考・判断・表現 等

課題解決

知識・技能

叙述から正確に読み取る児童の育成

主体的・対話的で
深い学びの実現

学びに向かう
力・人間性 等

主体的な学び

- ・目的意識をもって学ぶ
- ・学習の見通しと、次時に繋がる振り返り

対話的な学び

- ・多様な表現を通じた対話
- ・子ども同士の協働、教職員や地域との対話、先哲の考え

深い学び

- ・各教科等の特性に応じた見方・考え方
- ・問題発見・解決、価値や意味の創造

言語能力の充実（考える・感じる・想像する・表す）

四小スタンダード（学習規律、生活・学習習慣）

家庭

学校

地域

目指す授業像

- ・児童一人一人に達成感や充足感をもたせる授業、個を生かす授業を目指す。
- ・「インプット3、アウトプット7」の授業づくりをしていく。
- ・よりよい指導を目指し、全教職員が「四小の授業改善Ⅳ」として、次の四つの理念を念頭においた授業づくりを行う。
- ①多様性・・・教育技術、方法は様々であるので、できるだけ多くの方法を取り入れ、授業改善を行う。
- ②連続性・・・完成された教育方法、教育技術は存在しないので、常に検討、修正し、授業改善を行う。
- ③実証性・・・児童の実態を踏まえ、「教材」「発問・指示」「留意点」「結果」を記録し、授業改善を行う。
- ④主体性・・・多くの教育技術・方法から、自分の学級に適した技術・方法を選択し、授業改善を行う。

家庭

- ・家庭学習習慣の定着
- ・四小スタンダードの家庭での定着

学校

- ・重点教育目標「考える子」→重点施策「学力向上」
- ・校内研究テーマ「叙述から正確に読み取る児童の育成～授業UDの視点を生かして～」
- ・校内研修→OJT研修の充実 ・東京ベーシックドリル
- ・校内研究と一体化した日常の授業実践 ・朝学習、放課後の補習

地域

- ・地域学習財を活用した授業（歴史、文化、人材）
- ・放課後子ども教室（体験型授業・四小寺子屋）
- ・津田塾大学との外国語学習連携
- ・お仕事体験（2年、5年） ・青少年対による体験活動